

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和2年8月21日

独立行政法人水資源機構 木曾川用水総合管理所
所長 齊藤 一俊

1. 目的

この歩掛参考見積の募集は、当管理所が予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

なお、この歩掛参考見積書を提出頂いたことで、請負業務の指名又受注、競争参加資格等をお約束するものではありません。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における平成31・32年度一般競争（指名競争）参加資格業者の業種区分のうち「土木関係建設コンサルタント業務」に登録されていることとします。
- (2) 営業に関し、法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 当機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、木曾川水系及び豊川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者の員数を記載して下さい。
参考見積書の様式は問いません。様式例を添付していますので、記載の参考とされて下さい。
- (2) 提出期間 令和2年9月3日（木）から令和2年9月10日（木）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (3) 提出場所等
独立行政法人水資源機構 木曾川用水総合管理所長 齊藤 一俊 宛
【担当】管理課 水谷
〒495-0036 愛知県稲沢市祖父江町馬飼寺東26-1
TEL：0587-97-3710
FAX：0587-97-1482
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送又はFAX（社印があること）により提出するものとします。

4. 参考見積内容

(1) 基本条件

①本歩掛参考見積は、木曽川右岸施設における支線水路における機能保全計画書の更新を実施するために必要な技術者の員数を徴取するものです。

②本歩掛参考見積に記載する員数は、単位数量当たりとし、数量の増減に伴う補正及び複数検討する場合の複合補正が必要な場合は、その補正方法を記載するものとします。

【例】

単位数量当たり歩掛に対する補正： $○○ \times n + \triangle\triangle$ (n：対象数量)

(2) 作業内容

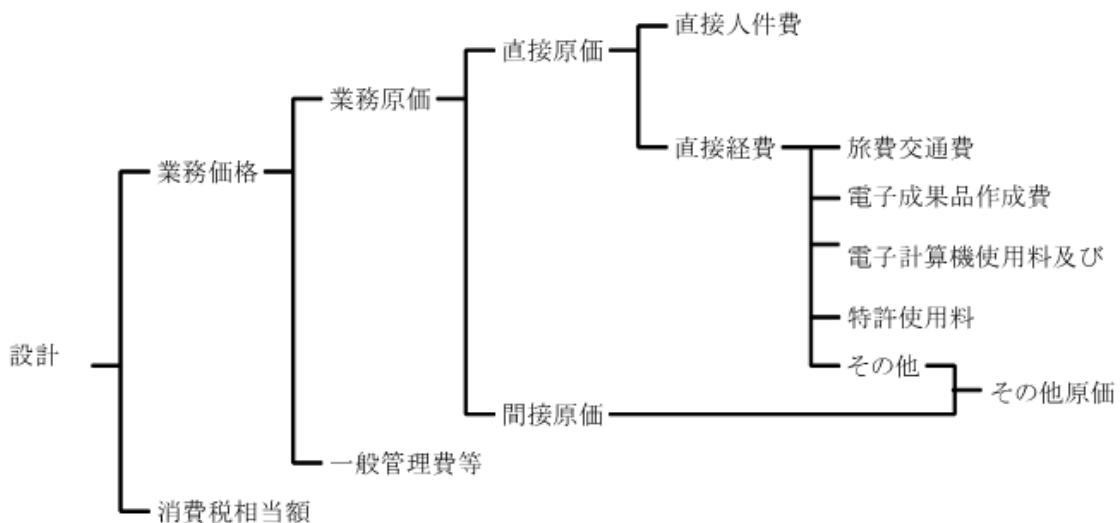
作業内容は別添「木曽川右岸支線等保全計画更新作業 見積仕様書」のとおりとします。

(3) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

①本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（調査等編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。

②本歩掛参考見積の徴取範囲は基準書で定義されている直接原価のうち、上記（2）作業内容を実施するために必要な技術者、資機材の員数とします。

(参考) 基準書に記載の積算体系



(4) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和2年度 設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

本歩掛参考見積募集要領に対する質問がある場合には、次のとおり書面（様式は自由）により提出して下さい。

- (1) 提出期間：令和2年8月25日（火）から令和2年8月28日（金）まで
持参する場合には、上記期間の土曜日及び日曜日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (2) 提出場所：3.（3）に同じ
- (3) 提出方法：3.（4）に同じ

6. 質問に対する回答

質問に対する回答は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和2年9月2日（水）から令和2年9月10日（木）まで
- (2) 閲覧方法：木曽川用水総合管理所のホームページに掲載します。

7. 歩掛参考見積書作成及び提出に要する費用

歩掛参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出して頂いた歩掛参考見積書について、ヒアリングを実施する場合があります。この場合、歩掛参考見積書提出者はヒアリングへのご協力をお願いします。

9. 貸与資料等

別添「木曽川右岸支線等保全計画更新作業 見積仕様書」に示すとおりとします。

10. 見積有効期限

見積有効期限は、令和3年3月31日とします。

ただし、これによりがたい場合は任意の期限とし、理由を歩掛参考見積書内に適宜記入して下さい。

— 以 上 —

木曾川右岸支線等保全計画更新作業

見積仕様書

令和2年8月

独立行政法人水資源機構
木曾川用水総合管理所

第1章 総 則

第1節 適 用

1-1 適 用

この見積仕様書は、独立行政法人水資源機構 木曾川用水総合管理所(以下「機構」という。)が行う、木曾川右岸施設(支線水路等)の施設における機能保全計画書(以下「保全計画」という。)の更新作業(以下「本作業」という。)にかかる見積徴取に適用する。

1-2 準拠基準

本見積の準拠基準は以下のとおりとする。

- (1) 農業水利施設ストックマネジメントマニュアル(平成19年3月)
(農林水産省 関東農政局 利根川水系土地改良調査管理事務所 保全対策センター)
- (2) 農業水利施設の機能保全の手引き(平成27年5月)
(食料・農業・農村政策審議会 農村振興分科会 農業農村整備部会 技術小委員会)
- (3) 農業水利施設の機能保全の手引き「パイプライン」(平成28年8月)
(食料・農業・農村政策審議会 農村振興分科会 農業農村整備部会 技術小委員会)
- (4) コンクリート標準示方書[維持管理編](2018年制定)
(社)土木学会)
- (5) FRPM管・塩ビ管の調査・診断マニュアル(案)【平成24年度版】(平成25年2月)
(独立行政法人水資源機構)
- (6) PC管本体の劣化に関する調査・診断マニュアル(案)【平成24年度版】(平成25年2月)
(独立行政法人水資源機構)

第2節 見積の内容

2-1 概要

本見積は、木曾川右岸施設の用水路及び支線水路について、機能保全計画の更新を行う作業にかかる技術者等の員数を徴取するものである。

<対象施設>

- ・木曾川右岸施設(用水路、支線水路)
- ・別紙「施設調書」に示す施設

<機能保全計画の更新履歴>

- ・平成19年度(平成20年3月):初回版作成
- ・平成20年度(平成21年1月):更新版作成
- ・平成23年度(平成24年3月):更新版作成
- ・平成29年度(平成30年3月):更新版作成(最新版)

2-2 施工場所

岐阜県美濃加茂市森山町地内(報告書納品先)

2-3 対象施設

対象施設の範囲等は別添見積参考図に示す。

2-4 作業項目、作業内容

本見積において徴取する作業項目と作業内容は、以下のとおりとする。

①計画・準備

①-1 計画・準備

作業項目	作業内容	見積単位
計画・準備	本見積の作業を行うために必要な資料の収集、貸与資料の確認等を行い業務計画書を作成する。 業務計画書は、準拠基準を精査して適切な保全計画更新が行われるよう策定する。	1式

②「施設現況調査」更新

②-1 「施設調書」の確認・修正

作業項目	作業内容	見積単位
「施設調書」の確認・修正	<p>既往の「施設調書（用水路・支線水利）」の内容について、機構が貸与する資料を基に、施設の管種・管径や事業等による更新状況を確認し、反映されていない情報がある場合には、施設調書へ反映させる。</p> <p>事業等による更新とは、緊急改築事業^{※注1}及び原因者工事^{※注2}による施設の更新を指す。</p> <p>注1）緊急改築事業とは以下の3つの事業をいう。 ・木曾川用水施設緊急改築事業(H8～H13) ・木曾川右岸施設緊急改築事業(H21～26) ・木曾川右岸緊急改築事業(H27～R02)</p> <p>注2）原因者工事とは、国や県等の行政機関等が行った道路工事や公園整備等において水路施設の付け替えを行った工事をいう。</p>	100ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：②-1、参照		
基礎資料		
・緊急改築事業に関する工事完成図書（完成図）等(本見積では貸与なし) ・原因者工事に関する資料（図面）等(本見積では貸与なし)		

②-2 「PC管区間のユニット区分の考え方」の修正

作業項目	作業内容	見積単位
「PC管区間のユニット区分の考え方」の修正	<p>②-1の作業結果を基に、「PC管区間のユニット区分の考え方」について修正を行う。</p> <p>「PC管区間のユニット区分の考え方」は、主にPC管ユニットについての区分方法を記載しているため、修正作業ではPC管以外の管種を含め、全てのユニットを記載するものとする。</p> <p>区分の考え方の追記が困難な場合には、機構に意見を求めることが出来る。</p>	100ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：②-2、参照		

②-3 ユニット区分図の作成

作業項目	作業内容	見積単位
ユニット区分図の作成	②-1の作業結果と、機構が貸与する平面図を基にユニット区分図 ^{※注1} を新規に作成する。 注1) ユニット区分図とは平面図の路線上でユニットの情報(ユニット区間, ユニット名, 延長等)を示した図面をいう。既往の機能保全計画書にはないため、今回新規作成するもの。	100ユニット当たり
機能保全計画(対象部分)		
<ul style="list-style-type: none"> ・なし(今回新規作成) ・【見積参考資料】対象作業：②-3、参照 		
基礎資料		
<ul style="list-style-type: none"> ・路線入り平面図(データ形式：dgn)(本見積では貸与なし) 		

③「施設機能診断」更新

③-1 漏水事故率の更新

作業項目	作業内容	見積単位
漏水事故率の更新	機構が貸与する資料を基に「漏水事故発生件数及び漏水事故率(以下「漏水事故率表」という。)」の更新を行う。既往の漏水事故率表は、主にPC管ユニットについて表記・整理されているため、更新作業では全てのユニットを表記するものとする。 なお、漏水事故率表の基礎となる漏水履歴については、機構が貸与する。	100ユニット当たり
機能保全計画(対象部分)		
<ul style="list-style-type: none"> ・【見積参考資料】対象作業：③-1、参照 		
基礎資料		
<ul style="list-style-type: none"> ・【見積参考資料】対象作業：③-1(貸与資料)、参照 		

③-2「現地踏査(概査)及び現地調査(精査)」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「現地踏査(概査)及び現地調査(精査)」の更新	機構が貸与する、過去に実施した現地調査の資料を基に、既往の現地調査内容一覧の更新を行う。	1式当たり
機能保全計画(対象部分)		
<ul style="list-style-type: none"> ・【見積参考資料】対象作業：③-2 		
基礎資料		
<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査資料(本見積では貸与なし) 		

③-3 「施設健全度と劣化要因」の確認・修正

作業項目	作業内容	見積単位
「施設健全度と劣化要因」の確認・修正	②-1 の作業結果を基に「施設健全度と劣化要因」の確認・修正を行う。なお、経過年数の基準年は令和2年とする。	100 ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：③-3		

③-4 「健全度評価一覧表」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「健全度評価一覧表」の更新	③-1 及び③-3 の作業結果を基に「健全度評価一覧表」の更新を行う。 既往の「健全度評価一覧表」は、調査等を行ったユニットについて表記・整理されているため、更新作業では全てのユニットを表記するものとする。	100 ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：③-4		

③-5 「性能低下予測」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「性能低下予測」の更新	③-3 の作業結果を基に「性能低下予測」の更新を行う。 既往の「性能低下予測」は、健全度評価 (S-4, S-3) 毎についてグループ ^{*1} 化し、性能低下予測を行っているため、更新作業では以下の作業を行う。 ・S-5 の性能低下予測の追加 ・経過年数によるグループの細分化 ・全てのユニットを対象として整理 注1) グループとは、健全度評価や経過年数を踏まえて、同様の性能低下予測が適用可能なユニットを集合させたもの。	5 グループ 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：③-5		

④「機能保全対策」の更新

④-1「対策工法」の再検討

作業項目	作業内容	見積単位
「対策工法」の再検討	<p>「対策工法」について、技術的・経済的な観点から再検討を行い、最も妥当な対策工法の立案を行う。</p> <p>検討においては以下の条件を満足する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんがい配水(通年通水)を考慮した施行可能な工法 ・適切な対策費の算出を行うこと ・周辺状況を勘案した施工可能な工法 <p>対策工法の再検討にあたっては必要に応じてメーカー等からの見積を徴取するものとする。</p> <p>対策工法の選定にあたっては、新技術や他地区での事例等を幅広く収集するとともに、必要に応じて機構及び施設管理者^{*1}との打合せ結果を反映させるものとする。</p> <p>注1) 施設管理者とは木曾川右岸用水土地改良区連合のことをいう。</p>	1式当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：④-1		

④-2「対策時期」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
対策時期の更新	<p>③-5の作業結果を基に「対策時期」の更新を行う。</p> <p>既往の「対策時期」は、健全度評価(S-4, S-3)毎に作成されているため、更新作業ではグループ毎にそれぞれ対策時期を検討するものとする。</p> <p>対策時期は複数のシナリオを検討して作成する。</p>	1式当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：④-2		

④-3「機能保全コスト算定」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「機能保全コスト算定」の更新	<p>④-1の作業結果を基に「機能保全コスト算定」の更新を行う。</p> <p>更新作業を行うにあたっては、以下の点を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持補修費は、過年度の補修費用等より算出されているため、令和2年を基準に更新する。 ・敷設替え工事費は、積み上げにより算出されているため、機構が貸与する緊急改築事業の資料を用いた平均金額(m毎)へ更新する。 ・メーカー等へ見積が必要な工法について、見積の再徴取による更新 	100ユニット当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：④-3		

④-4 「機能保全コスト・比較表・一覧表」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「機能保全コスト・比較表・一覧表」の更新	④-1 及び④-3 の作業結果を基に「機能保全コスト・比較表・一覧表」について更新を行う。 既往の「機能保全コスト・比較表・一覧表」は、限定的なユニットのみ作成されているため、更新作業では全てのユニットを対象に作成する。	100 ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：④-4		

④-5 「施設監視計画・監視頻度一覧」の更新

作業項目	作業内容	見積単位
「施設監視計画・監視頻度一覧」の更新	④-4 の作業結果及び機構が貸与する資料を基に「施設監視計画・監視頻度一覧」の更新を行う。 監視頻度一覧は、最適シナリオによる調査及び対策時期をプロットすることを基本とし、調査及び対策が単年度に多く重複する場合には、その措置について機構と打合せを行うものとする。 なお、最終的に決定した調査及び対策の考え方は、資料内で明記しておくものとする。	100 ユニット 当たり
機能保全計画(対象部分)		
・【見積参考資料】対象作業：④-5		
基礎資料		
・ 定点調査計画を策定した業務の報告書(本見積では貸与なし)		

⑤ 報告書作成及びとりまとめ

⑤-1 報告書作成及びとりまとめ

作業項目	作業内容	見積単位
報告書作成及びとりまとめ	上記作業全般のとりまとめを行うとともに、業務報告書を作成する。 業務報告書には、機能保全計画書(案)として整理した資料を格納するものとする。	1 式

第3節 見積作業想定数量

本見積における作業想定数量は、以下のとおり。

作業項目	作業想定数量	備考
①計画・準備	1式	
①-1 計画・準備	1式	
②「施設現況調査」更新	1式	
②-1 「施設調書」の確認・修正	154ユニット	
②-2 「PC管区間のユニット区分の考え方」の修正	154ユニット	
②-3 ユニット区分図の作成	154ユニット	
③「施設機能診断」更新	1式	
③-1 漏水事故率の更新	154ユニット	
③-2 「現地踏査(概査)及び現地調査(精査)」の更新	1式	
③-3 「施設健全度と劣化要因」の確認・修正	154ユニット	
③-4 「健全度評価一覧表」の更新	154ユニット	
③-5 「性能低下予測」の更新	5グループ	
④「機能保全対策」の更新	1式	
④-1 「対策工法」の再検討	1式	
④-2 「対策時期」の更新	1式	
④-3 「機能保全コスト算定」の更新	154ユニット	
④-4 「機能保全コスト・比較表・一覧表」の更新	154ユニット	
④-5 「施設監視計画・監視頻度一覧」の更新	154ユニット	
⑤ 報告書作成及びとりまとめ	1式	
⑤-1 報告書作成及びとりまとめ	1式	

第4節 貸与資料等

作業の基準や基礎となる下記の資料は、機構から貸与することが出来る。

- ① FRPM管・塩ビ管の調査・診断マニュアル(案)：PDF形式
- ② PC管本体の劣化に関する調査・診断マニュアル(案)：PDF形式
- ③ 緊急改築事業に関する工事関係図書(完成図)等：XLS形式、PDF形式等
- ④ 原因者工事に関する資料(図面)等：XLS形式、PDF形式等
- ⑤ 路線入り平面図：DWG形式
- ⑥ 過去に実施した現地調査資料：XLS形式、紙媒体等
- ⑦ 定点調査計画を策定した業務の報告書：PDF形式
- ⑧ 機能保全計画 木曾川右岸施設(用水路、支線水路)(平成30年3月)：XLS等

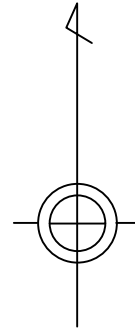
ただし、本見積徴収にあたって資料の貸与は行わないものとする。

第5節 留意事項

- (1) 作業にあたっては、根拠となる資料を整理し、明確なとりまとめに努めるものとする。
- (2) 適用した基準等は「出典」を業務報告書に記載するものとする。
- (3) 見積作業員数は第2節2-4に示す見積単位当たりの作業員数とする。
- (4) 見積の記載方法は参考資料「参考見積様式」を参考にするものとする。

— 以 上 —

木曾川右岸支線等保全計画更新作業 見積参考図



凡 例	
	見積対象施設

2. 施設現況調査

(1) 施設状況調査概要

◇施設調書(用水路・支線水路)については、以下の「機能診断調査における調査ユニットの考え方」に基づき区分したユニット(整理番号)単位に整理。(154ユニット)

機能診断調査における調査ユニットの考え方	平成20年3月
<p>農林水産省が策定している「農業水利施設ストックマネジメントマニュアル II. 工種別編3. パイプラインでは、「機能診断調査は、分水工や調圧水槽等で区切られる水理ユニットを対象とし、その区間における漏水事故率や漏水量、水圧、流量などの水理機能の状態から間接的に構造を評価することを基本とする。」となっている。</p> <p>水資源機構が管理を行うべき施設のうち、保全管理事業の対象となる土地改良区へ管理を委託している支線水路等の施設は、使用水圧、流量、荷重条件等から複数の管種で構成されているため、各路線単位で上流部より管種毎に区分した範囲を調査ユニットとする。</p> <p>なお、現地調査(精査)が必要となった路線については、地形条件(地下水の供給等の変化が想定される谷部、尾根部等による区分)、埋設環境(周辺土地利用形態等)、既設構造物の設置位置(調査、施工を考慮した、制水弁、分水工等で区切られた区間)及び過去の漏水・出水履歴を考慮し、更に区分した範囲を調査ユニットとする。</p>	

農業水利施設ストックマネジメントマニュアル[工種別編]管-13では、「調査ユニットは概ね1km[※]を目安とする。」となっている。

※国営水路(用水路)の分水工間の平均距離 1.15km

参考として、用水路・支線水路(PC管区間)におけるユニット区分の考え方を次頁に添付する。
(「PC管区間のユニット区分の考え方」参照)

◇暫定通水開始(1980)後の原因者工事(道路事業、河川改修事業、ほ場整備事業等による工事)等による施設の更新履歴や漏水などによる補修履歴の有無についても施設調書(用水路・支線水路)において整理。

なお、漏水などによる補修履歴の具体的な内容等については、(2)施設管理状況及び課題の「補修履歴(臨時)」を参照。

◇平成29年度検討対象の用水路・支線水路毎の工事完成年及び暫定通水開始年は下表のとおりである。

暫定通水開始年は、3. 施設機能診断(2)施設機能診断評価2)性能低下予測にある経過年数算出の起点となる年とする。

用水路・支線水路名	工事完成年	暫定通水開始年
もりやま 森山用水路	1979	1980
はにゅう 羽生用水路	1978	1980
さかほぎ 坂祝用水路	1978	1980
かもの 加茂野用水路	1975	1980
よねだ 米田用水路	1977	1980
かわべ 川辺第2支線水路	1979	1980
さぐち 佐口支線水路	1978	1980
たかはた 高畑支線水路	1998	1998
やおつ 八百津支線水路	1978	1980

※工事完成年は当該用水路・支線水路の最終工事完成年である。

(様式2)

造成事業地区概要	(1)造成事業・地区名称	水資源開発公団 木曾川総合用水事業(木曾川用水関係)・木曾川用水地区		
	(2)事業目的	木曾川用水事業(木曾川右岸施設)は、昭和43年に木曾川水系の水資源開発基本計画により木曾川総合用水事業が決定され、上流部事業(右岸地区)として岐阜県2市5町の農業用水(約3,390ha、最大取水量7.00m ³ /s)、同2市6町の水道用水(最大取水量0.99m ³ /s)、同3市6町の工業用水(最大取水量1.20m ³ /s)の供給を目的とし、昭和44年12月に工事着手、昭和51年暫定通水開始、昭和58年4月より管理を行っている。中部電力(株)上麻生ダムの湛水域上流に位置する白川取水口より取水し、幹線導水路約10kmを流下した後、左右岸の幹線用水路に分岐し、各用水路・支線水路と上工水に分水し、補給、供給している。		
	(3)受益面積(ha)	(造成時:1982)		(現況:2007)
		水田:	1,800 ha	1,670 ha
		畑:	1,590 ha	1,390 ha
		その他:	0 ha	0 ha
		小計	3,390 ha	3,060 ha
(4)関係市町村	岐阜県美濃加茂市、関市、七宗町、川辺町、坂祝町、富加町、八百津町(全2市5町)			
(5)総事業費	約204 億円 (1983 年単価)			
(6)施設管理者	独立行政法人水資源機構(用水路及び支線水路は木曾川右岸用水土地改良区連合へ管理委託)			
施設諸元	(7)造成施設	工種	数量	施設名称
		取水施設	1 箇所	白川取水口
		幹線導水路	9.8 km	白川導水路
		幹線用水路	13.7 km	右岸幹線水路、左岸幹線水路
		調整池	2 箇所	蜂屋調整池、上飯田調整池
		用水路	21.1 km	川辺用水路他6用水路
		支線水路	65.5 km	羽生支線水路他24支線水路
(1)施設名称	木曾川右岸施設(用水路、支線水路)			
(2)造成経緯	(本体工事) 昭和44年/1969年～昭和58年/1983年 (暫定通水年) 昭和55年/1980年 (経過年数) 37年(2017年時点) (本格通水年) 昭和58年/1983年 (経過年数) 34年(2017年時点)			
(3)施設受益面積	20 ha ～ 550 ha			
(4)計画最大通水量	0.048 m ³ /s ～ 2.53 m ³ /s			
(5)施設別事業費	約9,000,000 千円			
(6)規模及び主要構造	(延長)L= 86,644 m 内訳 ①川辺用水路他6用水路 21,108 m ②羽生支線水路他24支線水路 65,536 m (主要構造) PC管(φ1,350～500) 26,070 m DCIP管(φ1,500～250) 21,608 m FRPM管(φ1,500～350) 15,635 m SP管(φ1,350～250) 1,531 m RC管(φ700～450) 1,778 m VP管他(φ450～100) 19,801 m トンネル(2R=1800) 221 m			
(7)その他の諸元	P ～ の施設調書(用水路・支線水路)を参照。			

施設調査(用水路・支線水路)

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
【1. 川辺用水路】																		
1-①	STA0~STA2+21.300	川辺用水路①	1974	1980	221.300	馬てい形 2R=1.8	221.300											
1-②	STA0-10.926~STA2+77.489	川辺用水路②	2017	2017	298.700	DClPφ 700				298.700		分水工 空気弁 排泥工 円形ゲート	緊急改築事業	2017	PCφ700	298.700	有	
					520.000		221.300	0.000	0.000	298.700	0.000							
【川辺用水路 合計】																		
【2. 山之上用水路】																		
2-①	STA0+0.000~STA1+80.400	山之上用水路①	1976	1980	224.186	RCφ 700 RCφ 600				224.186		制水弁2箇所 空気弁 流量計						
2-②	STA2+4.000~STA13+28.000	山之上用水路②	1976	1980	1,134.824	DClPφ 600				1,134.824		吸水槽 揚水機場 制水弁 空気弁 排泥工						
					1,359.010		0.000	0.000	0.000	1,359.010	0.000							
【山之上用水路 合計】																		
【3. 森山用水路】																		
3-①	STA0+0.000~STA5+53.420	森山用水路①	2001	2002	553.420	SPφ 500 DClPφ 500				553.420		吐出水槽 空気弁3箇所 制水弁 流量計	清流里山公園事業	2001	SPφ500			
3-②	STA0+0.000~STA0+89.230	森山用水路②	2001	2002	89.230	SPφ 600 DClPφ 600				89.230			清流里山公園事業	2001	PCφ600	89.230		
3-③	STA0+89.230~STA1+23.900	森山用水路③	2001	2002	34.670	SPφ 600 DClPφ 600				34.670			清流里山公園事業	2001	RC600	34.670		
3-④-1	STA1+23.900~STA3+41.270	森山用水路④-1	2001	2002	217.370	SPφ 600 DClPφ 600				217.370		分水工2箇所 空気弁2箇所	清流里山公園事業	2001	PCφ500	217.370		
3-④-2	STA3+41.270~STA5+67.960	森山用水路④-2	1978	1980	226.690	PCφ 500				226.690								
3-⑤	STA5+66.776~STA9+3.007	森山用水路⑤	2000	2000	306.101	DClPφ 450 ~ 600				306.101		分水工3箇所 空気弁3箇所 排泥工 制水弁2箇所	緊急改築事業	2000	APφ600~ 450	306.101		
3-⑥	STA8+71.477~STA9+30.518	森山用水路⑥	1979	1980	30.041	SPφ 450				30.041		分水工						
3-⑦	STA9+30.518~STA14+87.000	森山用水路⑦	1999	1999	519.900	DClPφ 450				519.900		空気弁6箇所 排泥工3箇所 分水工4箇所 流量計	緊急改築事業	1999	APφ450	519.900		
					1,977.422		0.000	0.000	0.000	1,977.422	0.000							
【森山用水路 合計】																		
【4. 羽生用水路】																		
4-①	STA-1+45.139~STA0+6.918	羽生用水路①	1975	1980	212.323	SPφ 1000~ 1500				212.323		スルースゲート 排気パイプ マンホール兼空気弁						
4-②	STA0+6.918~STA3+83.000	羽生用水路②	1978	1980	356.000	PCφ 1500				356.000		超音波流量計 制水弁 空気弁2箇所 分水工 フローワ兼空気弁2箇所						
4-③	STA3+83.000~STA8+22.000	羽生用水路③	1978	1980	539.030	FRPMφ 1200				539.030								
4-④	STA8+22.000~STA10+58.000	羽生用水路④	1978	1980	236.000	PCφ 1200				236.000								
4-⑤	STA10+58.000~STA12+52.000	羽生用水路⑤	1978	1980	292.002	FRPMφ 1200				292.002								
4-⑥	STA12+52.000~STA17+77.870	羽生用水路⑥	1977	1980	868.000	PCφ 1200~ 600				868.000								
4-⑦	STA17+77.870~STA24+93.600	羽生用水路⑦	1976	1980	652.000	PCφ 600				652.000		マンホール兼空気弁 分水工3箇所 排泥工 通気工3箇所					有	

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考	
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋								
4-⑧	STA24+93.600~STA33+20.000	羽生用水路⑧	1976	1980	842.000	PCφ 600					842.000		排泥工 通気工3箇所 分土工						
4-⑨	STA33+20.000+~STA41+00.000	羽生用水路⑨	1976	1980	699.645	PCφ 600					699.645		排泥工 通気工2箇所 分土工						
4-⑩	STA41+00.000~STA45+66.200	羽生用水路⑩	1975	1980	466.000	PCφ 600					466.000		通気工 分土工					有	
【羽生用水路 合計】					5,163.000		0.000	0.000	0.000	5,163.000	0.000								
【5. 坂祝用水路】																			
5-①	STA0~STA0+49.680	坂祝用水路①	1975	1980	49.680	PCφ 1350					49.680								
5-②	STA0+49.680~STA3+35.300	坂祝用水路②	1975	1980	286.300	SPφ 1350					286.300								
5-③	STA3+35.300~STA3+78.390	坂祝用水路③	1998	1998	43.090	DCIPφ 1350					43.090		東海環状自動車道建設事業	1998	PCφ 1350	43.090			
5-④	STA3+78.390~STA3+94.000	坂祝用水路④	1975	1980	15.643	PCφ 1350					15.643		流量計 制水弁 人工孔						
5-⑤	STA3+94.000~STA8+54.844	坂祝用水路⑤	1998	1998	465.548	DCIPφ 1500 1350					465.548		分土工2箇所 制水弁 空気弁 排泥工 人工孔3箇所	東海環状自動車道建設事業	1998	PCφ 1350	465.548		
5-⑥	STA8+54.844~STA15+74.305	坂祝用水路⑥	1975	1980	704.899	PCφ 1350					704.899		空気弁2箇所 排泥工						
5-⑦	STA14+66.184~STA14+82.047	坂祝用水路⑦	1999	1999	16.071	FRPMφ 1500					16.071		河川改修事業	1999	PCφ 1350	16.071			
5-⑧	STA15+74.305~STA22+79.321	坂祝用水路⑧	1999	1999	706.785 1.201	DCIPφ 1350 SPφ 1200					706.785 1.201		制水弁2箇所 空気弁2箇所 分土工	「中部台地」土地区画整理事業	1999	PCφ 1350	707.986		
5-⑨	STA22+35.900~STA23+22.100	坂祝用水路⑨	1976	1980	86.347	PCφ 1200					86.347		排泥工						
5-⑩	STA23+22.100~STA24+58.500	坂祝用水路⑩	1999	1999	136.419	FRPMφ 1200					136.419			「中部台地」土地区画整理事業	1999	PCφ 1200	136.419		
5-⑪	STA24+58.500~STA31+32.457	坂祝用水路⑪	1984	1984	631.594	DCIPφ 1350					631.594		空気弁3箇所	富士通美濃加茂工場建設事業	1984	PCφ 1200	631.594		
5-⑫	STA31+32.457~STA32+2.56	坂祝用水路⑫	2014	2014	259.12	DCIPφ 1200					259.120		空気弁	緊急改築事業	2014	PCφ 1200	259.120	有	
5-⑬	STA32+2.56~STA41+23.02	坂祝用水路⑬	2016	2016	921.050	DCIPφ 1200					921.050		空気弁2箇所 分土工 排泥工	緊急改築事業	2016	PCφ 1200	921.050	有	
5-⑭	STA41+23.02~STA49+7.710	坂祝用水路⑭	2017	2017	843.260	DCIPφ 1100					843.260		空気弁2箇所 分土工2箇所 排泥工	緊急改築事業	2017	PCφ 1100	843.260	有	
5-⑮	STA49+7.710~STA58+91.810	坂祝用水路⑮	1978	1980	865.000	PCφ 1000					865.000		空気弁2箇所 分土工5箇所 排泥工					有	
5-⑯	STA49+66.590~STA50+7.400	坂祝用水路⑯	1978	1980	40.810	SPφ 1000					40.810		空気弁						
5-⑰	STA58+91.810~STA61+76.100	坂祝用水路⑰	1978	1980	285.415	PCφ 1000					285.415		分土工2箇所 空気弁3箇所						
【坂祝用水路 合計】					6,358.232		0.000	0.000	0.000	6,358.232	0.000								
【6. 加茂野用水路】																			
6-①	STA0-0.005~STA6+18.630	加茂野用水路①	1975	1980	623.000	PCφ 600					623.000		分土工4箇所 制水弁 空気弁 流量計 通気工3箇所 排泥工					有	
6-②	STA6+18.630~STA13+42.470	加茂野用水路②	1975	1980	740.482	PCφ 600					740.482		分土工 制水弁 通気工5箇所						
【加茂野用水路 合計】					1,363.482		0.000	0.000	0.000	1,363.482	0.000								
【7. 米田用水路】																			
7-①	STA0+5.600~STA0+25.751	米田用水路①	1975	1980	21.087	SPφ 700					21.087		流量計						
7-②	STA0+25.751~STA2+46.751	米田用水路②	2000	2000	221.016	PCφ 700 (管更正工法)					221.016			緊急改築事業	2000	PCφ 700	221.016		

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
7-③	STA0-24.000~STA8+18.324	米田用水路③	1973	1980	803.396	PCφ 600 ~ 700				803.396		分水工 空気弁3箇所 排泥工					有	
7-④	STA8+18.324~STA13+20.120	米田用水路④	2000	2000	501.863	PCφ 600 (管更正工法)				501.863		分水工 空気弁2箇所	緊急改築事業	2000	PCφ 600	501.863	有	
7-⑤	STA13+20.120~STA20+78.000	米田用水路⑤	2016	2016	710.234	DCIPφ 600				710.234		空気弁 排泥工 制水弁	緊急改築事業	2016	PCφ 600	710.234	有	
7-⑥	STA20+78.000~STA23+81.765	米田用水路⑥	2016	2016	350.412	DCIPφ 600				350.412		空気弁2箇所 排泥工	緊急改築事業	2016	PCφ 600	350.412	有	
7-⑦	STA23+81.765~STA27+21.765	米田用水路⑦	2012	2012	340.000	DCIPφ 500				340.000		分水工 空気弁	緊急改築事業	2012	PCφ 500	340.000	有	
7-⑧	STA27+21.765~STA28+1.997	米田用水路⑧	1997	1997	82.259	DCIPφ 600				82.259		空気弁2箇所	河川改修工事	1997	PCφ 600	82.259		
7-⑨	STA28+1.997~STA28+83.701	米田用水路⑨	1977	1980	80.229	PCφ 500				80.229								
7-⑩	STA 28+83.701~STA35+41.257	米田用水路⑩	1998	1998	663.919	DCIPφ 450 ~ 600				663.919		分水工 空気弁2箇所 排泥工2箇所 制水弁	緊急改築事業	1998	PCφ 500	663.919		
7-⑪	STA35+41.257~STA35+50.460	米田用水路⑪	1977	1980	14.807	SPφ 450				14.807		空気弁						
7-⑫	STA35+56.061~STA41+72.800	米田用水路⑫	1998	1998	617.871	DCIPφ 400 ~ 450				617.871		分水工 空気弁3箇所 排泥工 制水弁	緊急改築事業	1998	APφ 450	617.871		
7-⑬	STA41+72.800~STA42+12.318	米田用水路⑬	1977	1980	39.525	SPφ 300 ~ 450				39.525		分水工2箇所 排泥工						
【米田用水路 合計】					4,446.618			0.000	0.000	0.000	4,446.618	0.000						
【8. 神坂支線水路】																		
8-①	NO.0+11.740~NO.3+1.460	神坂支線①	1978	1980	290.563	VPφ 350				290.563		空気弁						
8-②	NO.3+32.370~NO.0+23.110	神坂支線②	1979	1980	716.303	DCIPφ 300				716.303		空気弁3箇所 制水弁						
8-③	NO.0+23.110~NO.1+16.720	神坂支線③	1981	1981	176.107	VPφ 350				176.107		分水工2箇所						
【神坂支線水路 合計】					1,182.973			0.000	0.000	0.000	1,182.973	0.000						
【9. 川辺第1支線水路】																		
9-①	No.2+77.49~No.7+20.58	川辺第1支線①	1998	1998	22.384 702.369	SGPφ 450 DCIPφ 450				22.384 702.369		制水弁 分水工3箇所 空気弁4箇所 排泥工 流量計	緊急改築事業	1998	APφ 450	724.753		
9-②	No.7+20.58~No.16+15.55	川辺第1支線②	1998	1998	33.447 913.248	SPφ 450 DCIPφ 450				33.447 913.248		制水弁 分水工 空気弁 排泥工2箇所 制水弁 分水工4箇所 空気弁3箇所 排泥工	緊急改築事業	1998	APφ 450~ 300	946.695		
9-③	No.16+15.55~No.17+97.13	川辺第1支線③	1998	1998	148.590	VPφ 300				148.590		分水工	緊急改築事業	1998	APφ 300	148.590		
【川辺第1支線水路 合計】					1,820.038			0.000	0.000	0.000	1,820.038	0.000						
【10. 川辺第2支線水路】																		
10-①	NO.0-0.298~NO.8+10.800	川辺第2支線①	1979	1980	211.790	SPφ 600 FRPMφ 600 SPφ 600				211.790		空気弁 分水工						
10-②	NO.8+10.800~NO.37+15.171	川辺第2支線②	1975	1980	739.000	PCφ 600				739.000		排気工2箇所 排泥工2箇所					有	
10-③	NO.37+15.171~NO.43+0.171	川辺第2支線③	1998	1998	124.542	DCIPφ 700				124.542			国道41号美濃加茂BP建設工事	1998	PCφ 600	135.000		
10-④	NO.43+0.171~NO.48+24.000	川辺第2支線④	2016	2016	149.000	DCIPφ 600				149.000		分水工 排泥工	緊急改築事業	2016	PCφ 600	149.000		

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
10-⑤	NO.48+24.000~NO.51+0.000	川辺第2支線⑤	1998	1998	48.615	DCIP φ 600				48.615			国道41号美濃加茂BP建設工事	1998	PC φ 600	48.615		
10-⑥	NO.51+0.000~NO.72+16.950	川辺第2支線⑥	1975	1980	426.000	PC φ 600~ 500				426.000		排気工 排泥工 分水工						
10-⑦	NO.72+16.950~NO.77+10.950	川辺第2支線⑦	1998	1998	119.000	DCIP φ 500				119.000			国道41号美濃加茂BP建設工事	1998	PC φ 500	119.000		
10-⑧	NO.77+10.950~NO.79+0.060	川辺第2支線⑧	1975	1980	154.000	PC φ 500				154.000								
10-⑨	NO.79+0.060~NO.81+11.060	川辺第2支線⑨	1998	1998	301.031	DCIP φ 500				301.031			国道41号美濃加茂BP建設工事	1998	PC φ 500	184.148		
10-⑩	NO.81+11.060~NO.88+0.003	川辺第2支線⑩	1975	1980	164.000	PC φ 500				164.000								
10-⑪	NO.88+0.003~NO.131+8.356	川辺第2支線⑪	1998	1998	828.988	DCIP φ 450~ 400				828.988		分水工4箇所 制水弁3箇所 排泥工2箇所 流量計 空気弁3箇所	緊急改築事業	1998	AP φ 450~ 400	828.988		
10-⑫	NO.131+8.356~NO.158+3.660	川辺第2支線⑫	1998	1998	672.034	VP φ 300				672.034		分水工2箇所 排泥工2箇所 制水弁2箇所 空気弁2箇所	緊急改築事業	1998	AP φ 300	672.034		
		【川辺第2支線水路 合計】			3,938.000					3,938.000	0.000							
		【11. 山之上支線水路】																
11-①	STA0-2.530~STA8+17.600	山之上支線①	1980	1980	967.938	FRPM φ 600 500 450				967.938		制水弁3箇所 分水工6箇所 空気弁2箇所 排泥工 量水計						
					50.111	SP φ 450				50.111								
11-②	STA0+10.000~STA41+15.000	山之上支線②	1981	1981	2,035.364	FRPM φ 450 400				2,035.364		制水弁 分水工7箇所 空気弁6箇所 排泥工5箇所						
		【山之上分線水路】																
11-③	STA0+0.000~STA9+98.500	山之上分線	1979	1980	1,232.335	VM φ 450 400				1,232.335		制水弁2箇所 分水工7箇所 空気弁5箇所 排泥工2箇所 量水計						
		【上蜂屋分線水路】																
11-④	STA0+10.460~STA2+85.000	上蜂屋分線	1981	1981	274.638	VM φ 350				274.638		分水工3箇所 空気弁						
	STA2+85.000~STA6+5.000		1981	1981	316.609	VP φ 300				316.609		排泥工 分水工3箇所 空気弁						
		【山之上支線水路 合計】			4,876.995					4,876.995	0.000							
		【12. 森山支線水路】																
12-①	STA0+0.000~STA1+78.937	森山支線①	1976	1980	177.016	PC φ 900				177.016								
12-②	STA1+70.400~STA12+36.103	森山支線②	1977	1980	1,066.294	FRPM φ 800				1,066.294		排泥工 制水弁 人孔マンホール						
12-③	STA12+36.103~STA13+53.203	森山支線③	1997	1997	120.390	DCIP φ 800 ~ 900				120.390		マンホール兼空気弁 排泥工2箇所 制水弁	東海環状自動車道建設事業	1997	FRPM φ 800	120.390		
12-④	STA13+53.203~STA24+57.330	森山支線④	1977	1980	1,107.690	FRPM φ 800 ~ 700				1,107.690		排泥工2箇所 制水弁2箇所 空気弁2箇所 人孔マンホール2箇所						
12-⑤	STA24+57.330~STA30+52.273	森山支線⑤	1976	1980	596.894	DCIP φ 450 ~ 500				596.894		制水弁						
12-⑥	STA0-0.530~STA25+1.160	森山支線⑥	1979	1980	2,533.890	FRPM φ 700 ~ 450				2,533.890		分水工6箇所 マンホール兼空気弁12箇所 排泥工2箇所 制水弁3箇所						
		【森山支線水路 合計】			5,602.174					5,602.174	0.000							

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
【13. 佐口支線水路】																		
13-①	STA0~STA9+83.140	佐口支線①	1978	1980	983.140	VUφ 400 350 250 DCIPφ 500				983.140		制水弁3箇所 空気弁2箇所 分水工5箇所						
					983.140		0.000	0.000	0.000	983.140	0.000							
【14. 中之番支線水路】																		
14-①	STA0+0.0000~STA8+13.293	中之番支線①	1999	1999	780.992	DCIPφ 450				780.992		制水弁3箇所 分水工2箇所 空気弁3箇所 流量計 排泥工2箇所	緊急改築事業	1999	APφ 450	780.992		
					780.992		0.000	0.000	0.000	780.992	0.000							
【15. 本地支線水路】																		
15-①	NO.0+0.00~NO.3+34.310	本地支線①	1981	1981	335.055	FRPMφ 350				335.055		分水工4箇所 空気弁						
15-②	NO.3+34.310~NO.15+3.630	本地支線②	1981	1981	1,222.181	VPφ 250~ 200				1,222.181		分水工6箇所 空気弁4箇所 排泥工2箇所 制水弁2箇所						
					1,557.236		0.000	0.000	0.000	1,557.236	0.000							
【16. 羽生支線水路】																		
16-①	STA0~STA8+63.190	羽生支線①	1977	1980	868.739	FRPMφ 1000				868.739		制水弁 空気弁2箇所 排泥工2箇所						
16-②	STA8+63.190~STA12+20.790	羽生支線②	1976	1980	357.843	RCφ 1000 FRPMφ 900				357.843								
16-③	STA12+20.790~STA23+12.000	羽生支線③	2013	2013	960.148	DCIPφ 700				960.148		空気弁2箇所 排泥工 分水工2箇所 制水弁		2013	PCφ 700	960.148	有	
16-④	STA13+30.690~STA14+65.302	羽生支線④	2000	2000	134.612	DCIPφ 700				134.612			東海環状自動車道建設事業	2000	PCφ 700	134.612		
16-⑤	STA0~STA18+1.840	羽生支線⑤	1998	1998	891.632	DCIPφ 600 450				891.632		制水弁2箇所 空気弁6箇所 排泥工 分水工4箇所	県道拡幅事業	1998	PCφ 600~ 450	891.632		
					3,212.974		0.000	0.000	0.000	3,212.974	0.000							
【17. 下蜂屋支線水路】																		
【下蜂屋支線(送水路)】																		
17-①	STA0+5.700~STA7+45.830	下蜂屋支線①	1976	1980	22.409 732.566	APφ 400 VUφ 400				22.409 732.566		制水弁 空気弁2箇所 排泥工2箇所						
17-②	STA0-22.090~STA3+24.850	下蜂屋支線②	1978	1980	352.711	DCIPφ 400				352.711		揚水機場						
【下蜂屋支線(配水路)】																		
17-③	STA0+12.910~STA6+86.970	下蜂屋支線③	1978	1980	217.227	VUφ 300				217.227		制水弁 空気弁 配水槽						
					21.361 438.787	DCIPφ 350 VUφ 300				21.361 438.787		制水弁 空気弁 分水工 排泥工						

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備 考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
17-④	STA6+86.970～STA15+72.430	下蜂屋支線④	1977	1980	868.402	VPφ 300 200				868.402		制水弁2箇所 空気弁2箇所 分水工4箇所 排泥工2箇所						
【下蜂屋支線水路 合計】					2,653.463		0.000	0.000	0.000	2,653.463	0.000							
【18. 高畑支線水路】																		
18-①	STA0+3.980～STA19+92.850	高畑支線①	1998	1998	1,985.056	FRPMφ 400 350				1,985.056		制水弁7箇所 分水工5箇所 空気弁5箇所 排泥工3箇所 流量計	緊急改築事業	1998	APφ 400～ 350	1,980.056		
【高畑支線水路 合計】					1,985.056		0.000	0.000	0.000	1,985.056	0.000							
【19. 上蜂屋支線水路】																		
19-①	STA0-0.715～STA0+76.200	上蜂屋支線①	1998	1998	81.493	DCIPφ 350				81.493		空気弁 排泥工	緊急改築事業	1998	APφ 350	81.493		
19-②	STA0+76.200～STA2+37.000	上蜂屋支線②	1976	1980	323.431	VUφ 350				323.431		制水弁 空気弁2箇所 配水槽						
19-③	STA0+0.000～STA8+19.500	上蜂屋支線③	1998	1998	64.394 106.567 71.012 226.594 29.840 140.802	DCIPφ 350 VU,VMφ 350 DCIPφ 350 VMφ 350 DCIPφ 350 VMφ 350				64.394 106.567 71.012 226.594 29.840 140.802		排泥工 空気弁2箇所 空気弁 制水弁 空気弁2箇所 排泥工 制水弁 空気弁 排泥工	緊急改築事業	1998	APφ 350	639.209		
19-④	STA8+19.500～STA12+12.656	上蜂屋支線④	2000	2000	239.907 41.563 67.536 20.158	VPφ 300 DCIPφ 300 VPφ 300 DCIPφ 300				239.907 41.563 67.536 20.158		空気弁 排泥工 制水弁 空気弁	緊急改築事業	2000	APφ 300	369.164		
【上蜂屋支線水路 合計】					1,413.297		0.000	0.000	0.000	1,413.297	0.000							
【20. 伊瀬支線水路】																		
20-①	STA0-2.000～STA7+50.210	伊瀬支線①	1976	1980	887.011	VUφ 400 350				887.011		制水弁3箇所 分水工3箇所 空気弁6箇所 排泥工 揚水機場 ファームボンド						
【伊瀬支線水路 合計】					887.011		0.000	0.000	0.000	887.011	0.000							
【21. 大針支線水路】																		
21-①	STA0～STA7+2.790	大針支線①	2019	2019	123.790	DCIPφ 600				123.790			緊急改築事業 更新予定	2019	RCφ 600	123.790		
21-②	STA7+2.790～STA8+17.790	大針支線②	2019	2019	35.000	DCIPφ 600				35.000			緊急改築事業 更新予定	2019	PCφ 600	35.000		
21-③	STA8+17.790～STA13+8.544	大針支線③	2019	2019	90.754	DCIPφ 500				90.754		制水弁 分水工2箇所 空気弁						
21-④	STA13+8.544～STA39+2.800	大針支線④-1 大針支線④-2	2019 2012	2019 2012	289.000 243.000	DCIPφ 500 DCIPφ 500				289.000 243.000		空気弁	緊急改築事業 更新予定	2019	PCφ 500	289.000	有	
21-⑤	STA39+2.800～STA84+7.256	大針支線⑤	2000	2000	904.456	DCIPφ 400				904.456		制水弁工3箇所 分水工4箇所 空気弁4箇所 排泥工2箇所	緊急改築事業	2000	APφ 400	904.456	有	
【大針支線水路 合計】					1,686.000		0.000	0.000	0.000	1,686.000	0.000							

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
【22. 加茂野支線水路】																		
22-①	STA0~STA22+6.980	加茂野支線①	2001	2001	554.990	HP φ 600 500				554.990		制水弁2箇所 空気弁2箇所 分水工	緊急改築事業	2001	HP φ 600~ 500	554.990		管更正工法
22-②	STA0~STA5+26.740	加茂野支線②	1992	1992	128.961	DCIP φ 600				128.961			国道BP建設事業	1992	HP φ 600	128.961		
22-③	STA26+5.12~STA35+23.18	加茂野支線③	2001	2001	243.089	HP φ 500				243.089		制水弁 空気弁 分水工	緊急改築事業	2001	PC φ 500	243.089		管更正工法
22-④	STA34+47.400~STA122+5.392	加茂野支線④	2000	2000	2,139.656	DCIP φ 450 400 350				2,139.656		制水弁7箇所 空気弁12箇所 分水工11箇所 排泥工5箇所 流量計2箇所	緊急改築事業	2000	AP φ 400~ 350	2,139.656		
【加茂野支線水路 合計】																		
					3,066.696		0.000	0.000	0.000	3,066.696	0.000							
【23. 坂祝支線水路】																		
23-①	STA5+20.680~STA11+12.810	坂祝支線①	2013	2013	142.000	DCIP φ 1000				142.000		制水弁 空気弁 分水工	緊急改築事業	2013	PC φ 1000	142	有	
23-②	STA11+12.810~STA14+1.150	坂祝支線②	1994	1994	63.340	DCIP φ 1000				63.340			国道BP建設事業	1994	PC φ 1000	63.340		
23-③	STA14+1.150~STA34+5.000	坂祝支線③	2012	2012	503.000	DCIP φ 1000				503.000		空気弁3箇所 分水工 制水弁	緊急改築事業	2012	PC φ 1000	503	有	
23-④	STA34+5.000~STA53+13.470	坂祝支線④	2015	2015	484.440	DCIP φ 900				484.440		排泥工 分水工 空気弁3箇所	緊急改築事業	2015	PC φ 900	484.44	有	
23-⑤	STA53+13.470~STA63+7.940	坂祝支線⑤	1994	1994	244.470	FRPM φ 900				244.470		空気弁 分水工2箇所 排泥工	農免農道整備事業	1994	PC φ 900	244.47		
23-⑥	STA63+7.940~STA86+15.170	坂祝支線⑥	2014	2014	582.230	DCIP φ 900				582.230		制水弁2箇所 空気弁4箇所 分水工4箇所 排泥工	緊急改築事業	2014	PC φ 900	582.23	有	
23-⑦	STA86+15.170~STA114+19.460	坂祝支線⑦	2014	2014	704.290	DCIP φ 900				704.290		制水弁 空気弁4箇所 分水工 排泥工	緊急改築事業	2014	PC φ 900	704.29	有	
23-⑧	STA114+19.460~STA142+14.300	坂祝支線⑧	2014	2014	693.890	DCIP φ 800 700				693.890		制水弁 空気弁3箇所 分水工3箇所 排泥工2箇所	緊急改築事業	2014	PC φ 800~7	693.89	有	
23-⑨	STA0~STA8+84.450	坂祝支線⑨	1979	1980	884.450	FRPM φ 600				884.450		制水弁 空気弁4箇所 分水工6箇所 排泥工2箇所						
【稲辺分線】																		
23-稲-①	STA0+1.500~STA18+16.000	稲辺分線①	1998	1998	1,815.400	DCIP φ 450 400 300				1,815.400		制水弁4箇所 空気弁10箇所 分水工6箇所 排泥工2箇所 流量計	緊急改築事業	1998	AP φ 450~ 300	1,815.400		
【黒岩分線】																		
23-黒-①	STA0~STA78+12.450	黒岩分線①	1999	1999	1,993.363	VP φ 300 200				1,993.363		制水弁4箇所 空気弁13箇所 分水工7箇所 排泥工4箇所 流量計	緊急改築事業	1999	AP φ 300~ 200	1,993.363		
【坂祝支線水路 合計】																		
					8,110.873		0.000	0.000	0.000	8,110.873	0.000							

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
【24. 大牧谷支線水路】																		
24-①	STA0~STA1+23.498	大牧谷支線①	1999	1999	1.000	SP φ 350				1.000		制水弁2箇所 流量計 通気工	緊急改築事業	1999	AP φ 350	127.776		
					6.930	DClP φ 350				6.930								
					31.425	SP φ 350				31.425								
					88.421	DClP φ 350				88.421		空気弁						
24-②	STA0+4.039~+6+31.040	大牧谷支線②	1978	1980	618.014	VU φ 350				618.014		制水弁2箇所 分土工2箇所 空気弁						
【大牧谷支線水路 合計】																		
					745.790				0.000	0.000	0.000	745.790	0.000					
【25. 比久見支線水路】																		
25-①	STA0+0.593~STA68+7.000	比久見支線①	1998	1998	382.428	DClP φ 400				382.428		制水弁2箇所 分土工4箇所 空気弁 排泥工 量水計	緊急改築事業	1998	AP φ 400~ 300	1,718.537		
					4.056	AP φ 400				4.056								
					21.189	SP φ 400				21.189		空気弁						
					3.636	AP φ 400				3.636								
			1998	1998	636.446	DClP φ 400				636.446		制水弁 分土工6箇所 空気弁2箇所 排泥工3箇所						
					23.507	SP φ 350				23.507		空気弁						
					599.269	DClP φ 350				599.269		制水弁 分土工6箇所 空気弁2箇所 排泥工2箇所						
					11.000	SP φ 350				11.000		空気弁						
					4.469	AP φ 350				4.469								
					0.611	SP φ 350				0.611								
					31.926	DClP φ 350				31.926		分土工 排泥工						
25-②	STA68+7.000~STA94+13.312	比久見支線②	1998	1998	660.765	VP φ 300 250				660.765		制水弁 分土工3箇所 空気弁 排泥工2箇所	緊急改築事業	1998	AP φ 300~ 250	660.765		
【比久見支線水路 合計】																		
					2,379.302				0.000	0.000	0.000	2,379.302	0.000					
【26. 長谷支線水路】																		
26-①	STA0~STA7+94.930	長谷支線①	1979	1980	782.930	VU φ 300 VP φ 300				782.930		制水弁 空気弁3箇所 分土工						
【長谷支線水路 合計】																		
					782.930				0.000	0.000	0.000	782.930	0.000					
【27. 米田支線水路】																		
27-①	STA0+14.410~STA8+16.570	米田支線①	2000	2000	1,037.192	RC φ 450				1,037.192		通気工 空気弁3箇所	緊急改築事業	2000	RC φ 450	578.171		管更正工法
27-②	STA0+23.610~STA25+0.250	米田支線②	1981	1981	2,484.791	FRPM φ 600				2,484.791		配水槽 制水弁7箇所 空気弁17箇所 排泥工2箇所 分土工13箇所						
【米田支線水路 合計】																		
					3,521.983				0.000	0.000	0.000	3,521.983	0.000					

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備 考
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋							
【28. 信友支線水路】																		
28-①	STA0~STA66.120	信友支線	1981	1981	66.202	VUφ 200				66.202		制水弁						
					66.202		0.000	0.000	0.000	66.202	0.000							
【29. 米田畑第1支線水路】																		
29-①	STA0+2.18~STA10+46.00	米田畑第1支線①	1998	1998	1,043.820	VPφ 250 VUφ 100				1,043.820		制水弁6箇所 空気弁4箇所 分水工4箇所 排泥工2箇所 流量計	緊急改築事業	1998	APφ250~200	1,043.380		
					1,043.820		0.000	0.000	0.000	1,043.820	0.000							
【30. 米田畑第2支線水路】																		
30-①	NO.0+0.00~NO.43+9.340	米田畑第2支線①	1997	1997	875.342	VPφ 250				875.342		分水工4箇所 空気弁3箇所 制水弁4箇所 流量計	河川改修事業	1997	APφ250~200	912.180		
30-②	NO.43+9.340~NO.47+2.930	米田畑第2支線②	1997	1997	75.299	DClPφ 250				75.299		空気弁	緊急改築事業	1997	APφ250~200	75.299		
30-③	NO.47+2.930~NO.52+11.830	米田畑第2支線③	1997	1997	109.471	VPφ 250				109.471		分水工2箇所	緊急改築事業	1997	APφ250~200	109.471		
					1,060.112		0.000	0.000	0.000	1,060.112	0.000							
【31. 牧野支線水路】																		
31-①	STA0-17.726~STA34+14.000	牧野支線	2001	2001	1,729.364	VPφ 300 250				1,729.364		制水弁7箇所 分水工9箇所 空気弁6箇所 排泥工3箇所	緊急改築事業	2001	APφ250~200	1,760.500		
					1,729.364		0.000	0.000	0.000	1,729.364	0.000							
【32. 八百津支線水路】																		
【八百津支線】																		
32-①	NO.0+0.000~NO.8+14.500	八百津支線①	1975	1980	253.000	PCφ 700				253.000		分水工						有
32-②	NO.8+14.500~NO.24+16.000	八百津支線②	1976	1980	509.000	PCφ 700 600				509.000		分水工2箇所 排泥工2箇所 空気弁2箇所 制水弁						
32-③	NO.24+16.000~NO.42+14.500	八百津支線③	1976	1980	296.000	PCφ 600				296.000		分水工2箇所 排泥工 空気弁2箇所 制水弁						有
32-④	NO.41+7.390~NO.42+14.500	八百津支線④	1999	1999	32.110	DClPφ 600				32.110			県営事業	1999	PCφ600	32.110		
32-⑤	NO.43+24.500~NO.71+20.870	八百津支線⑤	1975	1980	725.000	PCφ 600				725.000								
32-⑥	NO.71+20.870~NO.92+5.100	八百津支線⑥	2016	2016	483.000	DClPφ 600				483.000		分水工2箇所 制水弁 空気弁		2016	PCφ600	483.000		有
32-⑦	NO.80+21.900~NO.82+6.714	八百津支線⑦	1989	1989	36.173	SPφ 600					36.2		水路付替工事	1989	SPφ600	34.980		
【八百津西分線】																		
32-西-①	NO.0+0.000~NO.7+14.300	八百津西分線①	1977	1980	185.000	PCφ 500				185.000		制水弁 排泥工						有
32-西-②	NO.7+14.300~NO.29+0.000	八百津西分線②	2015	2015	540.000	DClPφ 500				540.000		分水工2箇所 空気弁		2015	PCφ500	540.000		
32-西-③	NO.29+0.000~NO.51+9.970	八百津西分線③	1977	1980	560.000	PCφ 500				560.000		分水工2箇所 空気弁2箇所 排泥工						有
32-西-④	NO.0+10.000~NO.11+43.000	八百津西分線④	1999	1999	633.627	VPφ 450~ 300				633.627		分水工2箇所 空気弁 制水弁2箇所 排泥工	緊急改築事業	1999	APφ450~350	582.280		

整理番号	測点	水路名称	完成年度	供用開始年度	延長(m)	規格・規模	内 訳					付帯施設名称	更新事業名	更新年度	前歴管種・管径	延長(m)	補修履歴の有無	備 考	
							トンネル	開水路	暗渠	管渠	水路橋								
【八百津東分線】																			
32-東-①	NO.0+0.000～NO.14+22.560	八百津東分線①	1975	1980	372.000	PCφ 600～ 500				372.000		分水工2箇所 空気弁2箇所							
32-東-②	NO.14+22.560～NO.32+12.410	八百津東分線②	1975	1980	440.000	PCφ 500				440.000		制水弁 排泥工 空気弁 分水工2箇所							
32-東-③	NO.32+12.410～NO.61+18.420	八百津東分線③	1975	1980	731.000	PCφ 500				731.000		制水弁 排泥工 空気弁2箇所 分水工2箇所							
32-東-④	NO.61+18.420～NO.66+23.473	八百津東分線④	1996	1996	130.258	VPφ 450				130.258			緊急改築事業	1996	PCφ500	130.053			
32-東-⑤	NO.66+23.473～NO.69+15.340	八百津東分線⑤	1996	1996	66.970	DClPφ 450				66.970		分水工 制水弁	緊急改築事業	1996	APφ450	79.327			
【中山分線】																			
32-中-①	NO.0+2.500～NO.8+18.190	中山分線①	1976	1980	224.000	PCφ 600				224.000		空気弁 制水弁 排泥工							
32-中-②	NO.8+18.190～NO.32+13.300	中山分線②	1976	1980	420.000	PCφ 600				420.000		空気弁 排泥工							
32-中-③	NO.32+13.300～NO.49+0.000	中山分線③	1976	1980	570.000	PCφ 600				570.000		空気弁 分水工 制水弁						有	
32-中-④	NO.49+0.000～NO.155+10.000	中山分線④	2000	2000	2,580.295	DClPφ 500～ 450				2,580.295		分水工9箇所 空気弁10箇所 制水弁5箇所 排泥工5箇所	緊急改築事業	2000	PC500～ APφ350	2,595.320			
32-中-⑤	NO.155+10.000～NO.179+21.200	中山分線⑤	1978	1980	661.884	VPφ 350				661.884		分水工4箇所 空気弁3箇所 制水弁 排泥工							
【八百津支線水路 合計】					10,449.317				0.000	0.000	0.000	10,413.144	36.173						
全 体 合 計		32路線			86,723.502				221.300	0.000	0.000	86,466.029	36.173						

※完成年度：工事竣工年度、供用開始年度：暫定通水開始年度。

※補修履歴の内容等については、P22～P26に整理。

PC管区間のユニット区分の考え方

地区名：木曾川用水地区（木曾川右岸施設）

水路名 整理番号 管種・管径	延長 (m)	周辺環境・埋設環境				ユニット区分の考え方
		地下水位 管体付近まであれば○	土地利用 区分(周辺)	埋設経過 年数	埋設状態 (荷重)	
				30年以上は ○		
3. 森山用水路 3-④-2 PCφ500	226.690	○	森林		公園下 耕地下	・周辺環境が造成地と山裾に分かれるが、延長的にも短く、全線漏水事故も発生していないこと、また、調査、施工性から区分する構造物もないことから、同一ユニットとしてPC管末端まで区分
4. 羽生用水路 4-② PCφ1,500	356.000		水田		道路下	・上下流の異なる管種に挟まれ、同じ周辺環境(水田)であることから、1ユニットとして区分
4. 羽生用水路 4-④ PCφ1,200	236.000		森林・水田		道路下	・上下流の異なる管種に挟まれ、延長も短く同じ周辺環境(山間)であることから、1ユニットとして区分
4. 羽生用水路 4-⑥ PCφ1,200~600	868.000		森林・水田	○	道路下	・同じ周辺環境(山間)にあり、調査、施工性から制水弁までを1ユニットとして区分
4. 羽生用水路 4-⑦ PCφ600	652.000		森林・水田	○	道路下	・上流の制水弁から中間に排泥工があるが、同じ周辺環境(水田)であることから、同じユニットとし、調査、施工性から下流の排泥工までを1ユニットとして区分
4. 羽生用水路 4-⑧ PCφ600	842.000		森林	○	道路下 耕地下	・上流部区間から山間部に埋設されており、下流部の周辺環境(水田)とは異なることから、周辺環境が異なる地点で区分
4. 羽生用水路 4-⑨ PCφ600	699.645		水田	○	道路下	・同じ周辺環境(水田)であり、調査、施工性から排泥工までを1ユニットとして区分
4. 羽生用水路 4-⑩ PCφ600	466.000		水田	○	道路下 (県道横断)	・上流の排泥工から、同じ周辺環境(水田)であることから、PC管の末端までを1ユニットとして区分
5. 坂祝用水路 5-① PCφ1,350	49.680		森林	○	樹林下	・延長は短いですが、山の中に埋設されており、下流部は異なる管種であり、下流部の異なる管種の延長が長いことから、1ユニットとして区分
5. 坂祝用水路 5-④ PCφ1,350	15.643		森林	○	樹林下	・延長は短いですが、山裾に埋設されており、上下流は異なる管種であり上下流部の異なる管種の延長が長いことから1ユニットとして区分
5. 坂祝用水路 5-⑥ PCφ1,350	704.899	○	水田	○	道路下 (国道横断)	・同じ周辺環境(山裾)下流部に異なる管種が含まれているが、延長も短く、漏水事故も発生していないことから1ユニットとして区分
5. 坂祝用水路 5-⑨ PCφ1,200	86.347		森林	○	樹林下	・上下流の延長が長く異なる管種に挟まれていることから、1ユニットとして区分

水路名 整理番号 管種・管径	延長 (m)	周辺環境・埋設環境				ユニット区分の考え方
		地下水位	土地利用 区分(周辺)	埋設経過 年数	埋設状態 (荷重)	
		管体付近ま であれば○		30年以上は ○		
5. 坂祝用水路 5-⑮ PCφ1,000	865.000	○	市街地		道路下	・上流の制水弁から同じ周辺環境(市街地)であり、調査、施工性から排泥工までを1ユニットとして区分
5. 坂祝用水路 5-⑰ PCφ1,000	285.415	○	畑		道路下	・上流の排泥工から同じ周辺環境(畑)であることから、PC管末端までを1ユニットとして区分
6. 加茂野用水路 6-① PCφ600	623.000	○	水田・畑 ・市街地	○	道路下	・始点部の制水弁から同じ周辺環境(水田・畑)であり、調査、施工性から排泥工の構造物までで区分
6. 加茂野用水路 6-② PCφ600	740.482	○	水田・畑 ・市街地	○	道路下	・上流の排泥工から同じ周辺環境(水田・畑)であり、PC管までで区分
7. 米田用水路 7-③ PCφ700~600	803.396		水田	○	道路下	・上流から同じ周辺環境(水田)であり、異なる管種までの区間で区分
7. 米田用水路 7-⑨ PCφ500	80.229		森林・水田	○	道路下	・延長は短いですが、上下流異なる管種に挟まれており、漏水事故もないことから1ユニットとして区分
10. 川辺第2支線水路 10-② PCφ600	739.000	○	森林・水田	○	道路下	・上流から同じ周辺環境(山裾)であり、異なる管種までの区間で区分
10. 川辺第2支線水路 10-⑥ PCφ600~500	426.000	○	森林・水田	○	道路下	・上流の異なる管種から同じ周辺環境(谷部)であり、異なる管種までの区間で区分
10. 川辺第2支線水路 10-⑧ PCφ500	154.000	○	森林・水田	○	道路下	・上流の異なる管種から同じ周辺環境(山裾)であり、異なる管種までの区間で区分
10. 川辺第2支線水路 10-⑩ PCφ500	164.000	○	水田	○	道路下	・上流の異なる管種から同じ周辺環境(水田)であり、異なる管種までの区間で区分
12. 森山支線水路 12-① PCφ900	177.016		畑	○	道路下	・延長も短く、同じ周辺環境(畑)であることから、異なる管種までの区間を1ユニットとして区分
13. 佐口支線水路 13-① VUφ400~250 (DCIPφ500)	983.140		森林・畑 ・宅地等	○	道路下	・上流の異なる管種から同じ周辺環境(森林・畑)であり、異なる管種までの区間で区分
18. 高畑支線水路 18-① FRPMφ400~350	1,985.056		畑	○	道路下	・上流の異なる管種から同じ周辺環境(水田・畑)であり、異なる管種までの区間で区分

水路名 整理番号 管種・管径	延長 (m)	周辺環境・埋設環境				ユニット区分の考え方
		地下水位	土地利用 区分(周辺)	埋設経過 年数	埋設状態 (荷重)	
		管体付近まで であれば○		30年以上は ○		
21. 大針支線水路 21-② PCφ600	35.000	○	畑	○	道路下	・延長は短いですが、異なる管種に挟まれており、過去に漏水事故も発生していないことから、1ユニットとして区分 (平成31年度に改築予定)
21. 大針支線水路 21-④-1 PCφ500	289.000	○	畑	○	道路下	・上流部の異なる管種からPC管末端までは周辺環境(畑)であることから、1ユニットとして区分 (平成31年度に改築予定)
32. 八百津支線水路 32-① PCφ700	253.000	○	水田	○	道路下 (国道横断)	・上流の制水弁から、周辺環境(水田)が同じであり、この区間では漏水事故も発生していること及び調査、施工性から排泥工の構造物までで区分
32. 八百津支線水路 32-② PCφ700~600	509.000	○	水田	○	道路下	・上流の排泥工から、周辺環境(水田)が同じであり、調査、施工性から制水弁の構造物までで区分
32. 八百津支線水路 32-③ PCφ600	296.000	○	水田	○	道路下	・上流の制水弁から、下流部の一部に延長が短い異なる管種が含まれているが、周辺環境(水田)も同じであり、下流部のトンネルまでの残りのPC管延長が37mと短いことから、同一ユニットとし、トンネルまでで区分
32. 中山分線 32-中-② PCφ600	420.000	○	水田	○	道路下	・上流の制水弁から、周辺環境(山裾)が同じであり、調査、施工性から排泥工の構造物までで区分
32. 中山分線 32-中-③ PCφ600	570.000	○	水田	○	道路下 (県道下)	・上流の排泥工から、周辺環境(山間)が同じであり、PC管の末端にある制水弁までで区分
32. 八百津西分線 32-西-① PCφ500	185.000	○	水田	○	道路下	・上流の制水弁から、周辺環境(水田)が同じであり、調査、施工性から制水弁の構造物までで区分
32. 八百津西分線 32-西-③ PCφ500	560.000	○	水田	○	道路下	・上流の制水弁から、周辺環境(水田)が同じであることから、PC管の末端までで区分
32. 八百津東分線 32-東-① PCφ600~500	372.000	○	水田	○	道路下	・上流から、周辺環境(水田)が同じであり、調査、施工性から制水弁の構造物までで区分
32. 八百津東分線 32-東-② PCφ500	440.000	○	水田	○	道路下	・上流の制水弁から周辺環境(水田)が同じであり、調査、施工性から制水弁までを1ユニットとして区分
合 計	17,157.638	36ユニット				

注1)埋設経過年数は、施設完成年からの経過年数である。

